

令和 6年 9月13日（金）

日 本 緑 化 工 学 会

令 和 6 年 通 常 総 会

於：東京農業大学 横井講堂
東京都世田谷区桜丘1-1-1

－ 次 第 －

議 案

- (1) 第一号議案 令和5年度事業報告
- (2) 第二号議案 令和5年度決算報告
- (3) 第三号議案 会則の改定
- (4) 第四号議案 令和6年度事業計画
- (5) 第五号議案 令和6年度収支予算
- (6) 第六号議案 役員の一部改選
- (7) その他

日本緑化工学会 <http://www.jsrt.jp/>

（大会会期中・会議関係日程） 2024年 於：東京農業大学

9月13日（金） 14：00～15：00 学会賞表彰式 及び 定時総会（横井講堂）

9月14日（土） 11：30～13：00 評議員会（会場A：1号館 232教室）

第一号議案

日本緑化工学会 令和5年度事業報告

(令和5年／2023年8月1日～令和6年／2024年7月31日)

1. 第54回日本緑化工学会大会の開催

開催年月日：2023年9月20日（水）～22日（金）

開催地：新潟コンベンションセンター 朱鷺メッセ（新潟県新潟市）及び 周辺

発表題数：64題（口頭発表 16件、ポスター発表 48件）

発表件数のうち 論文 13件、技術報告 23件、研究交流発表 28件

参加者：226名（会員 157名、学生 20名、一般 49名）

公開シンポジウム「新潟の海岸から学ぶグリーンインフラ」（9月21日）を開催。

現地見学会「新潟の海岸で感じるグリーンインフラ」（9月22日）を実施。

研究集会6件を会期中に開催。

2. シンポジウム

(1) 第54回日本緑化工学会大会にて公開シンポジウムを開催

開催年月日：2023年9月21日（木） 14：30～16：45

会場：新潟コンベンションセンター 朱鷺メッセ 3F 302（中会議室）

テーマ：「新潟の海岸から学ぶグリーンインフラ」

参加者：202名

3. 現地見学会

(1) 第54回日本緑化工学会大会にて現地見学会を実施

開催年月日：2023年9月22日（金） 9：00～15：00

見学地：新潟県柏崎市松波、新潟市青山海岸を視察

テーマ：「新潟の海岸で感じるグリーンインフラ」

参加者：44名

4. 緑化工セミナー

学会諸活動をPRすること、学生や若手に活動内容を積極的に伝え、当学会の魅力を伝えることを目的とした「緑化工セミナー」を企画した。（昨年度中は開催なし）

5. 研究会等

(1) 生物多様性緑化研究部会

「未来の里山における人と自然を考える連続講演会」を、共催にて毎月1回オンライン開催。

主催：明治大学農学部応用植物生態学研究室 後援：一般財団法人世田谷トラストまちづくり

周知方法：運営メーリングリスト登録者へ案内を送付。

参加人数：各回30～50名

第5回：2023年8月2日（水） 秋山幸也 「ナラ枯れで更新される雑木林／生物学的現象」

第6回：2023年9月26日（火） 田口洋美

「山村の生物多様性を基盤とした狩猟採集活動から里山の未来を考える」

第7回：2023年10月4日（水） 小島 渉 「カブトムシとナラ枯れ」

- 第8回：2023年11月21日（火） 中沢一将 「管理の一元的な記録」
- 第9回：2023年12月6日（水） 壹崎昌和 「発生材活用の発想」
- 第10回：2024年1月10日（水） 島田和則
「都市近郊域における雑木林の生物多様性保全のための管理と課題」
- 第11回：2024年3月5日（火） 久保田繁男
「放置林の皆伐と萌芽更新＋天然下種更新による森林再生」
- 第12回：2024年3月13日（水） 荻野 豊 「小面積で多数のトラスト地の管理の試行錯誤」
- 第13回：2024年4月24日（水） 中村華子
「多様な主体との協力・連携によりすすめる阿蘇の草原植物の活用と地域活性化」
- 第14回：2024年5月15日（水） 山田 晋 「ヨーロッパの草原とその管理」
- 第15回：2024年6月12日（水） 深澤陽子
「房総半島に自生するミツバツツジ類の保全から考えるまちづくり」
- 第16回：2024年7月3日（水） 倉本 宣 「里山公園における林畑転換の意義」

(2) 生態・環境緑化研究部会

阿蘇の現地プロジェクトの継続及び関連活動（阿蘇ワーキングチーム）

- ・波野地区 すずらん自生地管理組合と共催の写真展 2024年4月～5月開催
- ・環境省直轄登山道における地域性種苗播種工の実施、モニタリングの継続
- ・熊本県阿蘇振興局発注工事における地域性種苗利用工の実施支援、モニタリングの継続
- ・阿蘇草原再生協議会への参加
- ・現地活動助成金：公益財団法人自然保護助成基金 協力型助成（2023年4月～2024年3月）

2022年度報告「阿蘇の草原植物の活用と地域活性化を目指した地域性種苗による緑化普及の取り組み」
（自然保護助成基金助成成果報告書 vol. 32（2023）236-250p）をまとめた。

(3) 斜面緑化研究部会 第54回大会にて研究集会を開催

開催日時：2023年9月20日（水） 14：30～16：00

会 場：新潟コンベンションセンター 朱鷺メッセ 201A

テーマ：「高強度の降雨に対応する斜面緑化を考える（Ⅱ）」（研究集会4）

参加者：約85名

(4) 緑化植物委員会 第54回大会にて研究集会を開催

開催日時：2023年9月20日（水） 16：15～17：45

会 場：新潟コンベンションセンター 朱鷺メッセ 201A

テーマ：解説 「生物多様性に配慮した緑化植物の取り扱い方に関するガイドライン 2023」
（研究集会5）

参加者：約90名

(5) 海岸林・沿岸域緑化研究部会 第6回公開勉強会（オンライン）の開催

開催日時：2023年12月4日（水） 17：30～19：00

開催方法：オンライン（Zoom）

テーマ：「海岸の連続性を考えるⅢ クロマツ林の管理と配置」

参加者：70名

(6) 緑・健康研究部会 オンラインセミナーを開催

開催日時：2024 年 7 月 30 日（火） 18：30～19：30

開催方法：オンライン（Zoom）

テーマ：「勤務者の健康とオフィス緑化ーバイオフィリックオフィスデザイン」

参加者：25 名

(7) 第 54 回大会 企画研究集会

① 企画担当：今西亜友美（研究集会 1）

開催日時：2023 年 9 月 20 日（水） 9：30～11：00 会場：201A

テーマ：OECM で生きる！生物のすみかとしての文化的緑地

② 企画担当：平林 聡・加藤 顕（研究集会 2）

開催日時：2023 年 9 月 20 日（水） 9：30～11：00 会場：201B

テーマ：i-Tree による生態系サービス評価ー実務での活用事例と日本発の新規機能実装への展望

③ 企画担当：小林達明・森本淳子・岡 浩平（研究集会 3）

開催日時：2023 年 9 月 20 日（水） 14：30～16：00 会場：201A

テーマ：ランドスケープの生態的レジリエンスを考える

④ 企画担当：手代木純・日下部友昭（研究集会 6）

開催日時：2023 年 9 月 20 日（水） 16：15～17：45 会場：201B

テーマ：グリーンインフラ技術開発のための実証調査の紹介

6. 学会誌の発行

(1) 第 49 巻 1 号（デジタル版＋冊子版）：令和 5 年 8 月 31 日発行 171 ページ（第 54 回大会特集号）

(2) 第 49 巻 2 号（デジタル版＋冊子版）：令和 5 年 11 月 30 日発行 92 ページ

(3) 第 49 巻 3 号（デジタル版＋冊子版）：令和 6 年 2 月 29 日発行 76 ページ

(4) 第 49 巻 4 号（デジタル版＋冊子版）：令和 6 年 5 月 31 日発行 70 ページ

- ・第 49 巻 2 号に、特集「乾燥地林の保全と再生を考える」及び「グリーンインフラ技術開発のための実証調査の紹介」を掲載。
- ・第 49 巻 3 号に、特集「OECM で生きる！生物のすみかとしての文化的緑地」及び「ランドスケープの生態的レジリエンスを考える」を掲載。
- ・第 48 巻 4 号に、特集「i-Tree による生態系サービス評価ー実務での活用事例と日本発の新規機能実装への展望ー」を掲載。
- ・第 49 巻 4 号をもって冊子版の発行を終了し、第 50 巻からデジタル版のみの発行に移行する。

7. 英文誌 Landscape and Ecological Engineering (LEE) の発行

(1) Vol. 19 No. 4：2023 年 10 月発行（11 編）

(2) Vol. 20 No. 1：2024 年 1 月発行（8 編）

(3) Vol. 20 No. 2：2024 年 4 月発行（9 編）

(4) Vol. 20 No. 3：2024 年 7 月発行（20 編）

- ・2023 年 1 月から、個人会員は LEE 誌の論文等に無料でオンラインアクセス可能。（毎年 3 月頃にアクセス方法について学会員に案内）

<https://link.springer.com/journal/11355/volumes-and-issues>

- ・Journal Impact Factor：1.7 (2023), 5-year Journal Impact Factor：2.0 (2023)

8. 令和 5 年度日本緑化工学会賞の授与

研究奨励賞：松岡 達也

「屋上緑化におけるセダムの混植が蜜源植物の生育に及ぼす効果に関する一連の研究」

技術奨励賞：佐藤 厚子

「メッシュシートを用いたオオイタドリの生育抑制手法の開発に関する一連の研究」

功 績 賞：小林 達明

「緑化分野における再生生態学の研究と普及に関する功績」

9. CPD

- (1) 第 54 回日本緑化工学会大会：森林分野 CPD として、2 名に述べ 8 ポイントを付与した。建設分野 CPD としては合計 47 ポイントを付与した。
- (2) 公開勉強会「海岸の連続性を考えるⅢ」：森林分野 CPD として、20 名にポイントを付与した。

10. 学会誌の電子化に伴う学会活動・運営（デジタル改革ワーキンググループ）

- (1) コミュニティレターの発行

2024 年 1 月に試行版を作成し、賛助会員に見本誌として配布した。

- (2) ホームページ整備の推進

- ・学会誌サイトの全体構成を外注してリニューアル、発行誌及びバックナンバーの掲載作業は学会員が担当できる体制を構築した。
- ・新規事業となるコミュニティレターサイトの新規作成について検討。
- ・学会誌で取り扱っていた学会記事、学会内外への情報公開、情報共有、広告などをホームページでの取り扱いに移行するため、担当理事やワーキングメンバーによる検討を進めた。

11. 情報共有委員会の新設

メーリングリスト green-if の運営について、総務部会が学会サーバーへメールアドレスを搭載、管理をおこなってきた体制を、google グループによる運用・情報共有委員会（新設）による管理運営の体制へ移行した。今後、SNS の連携などについては、委員会で検討・担当する。

12. 研究部門におけるその他活動

- (1) 防災学術連携体における活動

- ① 第 18 回防災学術連携シンポジウム（2024 年 3 月 25 日開催）において話題提供
木田幸男会員（一般社団法人グリーンインフラ総研）
- ② 防災学術連携体 2024 年度総会に参加 小川委員（2024 年 7 月 30 日開催）
- ③ その他 防災学術連携体の各種集会・行事等の告知、情報提供などに対応した。

13. その他事業

- (1) 日本学術会議に関する協力団体としての対応 基本情報の登録、資料提供、情報交換
- (2) ホームページ及び会員ブログの運営
- (3) 会員向け連絡「ニュースメール」の配信、情報管理と公開
- (4) 他団体行事への後援・共催等
 - ・日本緑化工協会 第 44 回緑化工技術講習会の後援
開催日：令和 6 年 7 月 22 日（月）～7 月 23 日（火） 会場：東京農業大学

14. 会員数（令和6年7月末現在。括弧内は、←前年度末、←前々年度末、←前々々年度末の数。）

(1) 名誉会員：7名（←8名 ←9名 ←8名）

(2) 正会員：583名（←582名 ←560名 ←569名）

(3) 学生会員：84名（←79名 ←65名 ←80名）

(4) 賛助会員：53団体（←53団体 ←53団体 ←51団体）

(5) 購読会員：32団体（←32団体 ←33団体 ←35団体）

・大会発表のために入会する学生会員に対する会費優遇措置を2015年度より実施、継続。

2023年度 収支報告書

(2023年 8月 1日 ～ 2024年 7月31日)

日本緑化工学会

	費 目	予算額 (A)	決算額 (B)	差額 (B-A)	対予算割合 (B÷A×100)	摘 要
収入の部	正会員費	4,080,000	4,420,400	340,400	108.34	正 会 員 583名 / 今年度入金 553名 (@8,000)
	賛助会員費	1,855,000	1,855,000	0	100.00	賛助会員 53団体 / 今年度入金 53団体 (@35,000)
	購読会員費	280,000	272,000	-8,000	97.14	購読会員 35団体 / 今年度入金 33団体 (@8,000)
	学生会員費	220,000	182,000	-38,000	82.73	学生会員 70名 / 今年度入金 46名 (@4,000)
	入会登録料	24,500	32,900	8,400	134.29	47名 (@700)
	英文誌購読料	20,000	26,520	6,520	132.60	
	投 稿 料	340,000	480,000	140,000	141.18	Vol.49-1 ～ Vol.49-4 分
	広 告 料	1,000,000	1,300,000	300,000	130.00	Vol.49-1 ～ Vol.49-4 分
	雑 収 入	750,000	809,468	59,468	107.93	大会事務局経費、別刷・BN販売収入、著作権使用料、J-Stage有料閲覧費、利息等
	小 計	8,569,500	9,378,288	808,788	109.44	
	繰 越 金	5,722,558	5,722,558			
	合 計	14,292,058	15,100,846	808,788	105.66	
支出の部	会 議 費	50,000	0	-50,000	0.00	
	旅費交通費	100,000	50,460	-49,540	50.46	理事会交通費、対面開催は1回とし、他はWeb会議・メール会議とする
	事務人件費	505,000	465,380	-39,620	92.15	口座振替システム基本料金、HP・ML管理費、サーバーレンタル料
	通 信 費	350,000	365,064	15,064	104.30	会費請求書発送費、電話・FAX料、Zoomライセンス(2契約)
	事務用品費	100,000	79,662	-20,338	79.66	学会賞賞状・副賞、総務部会事務用品費
	学会誌刊行費	5,000,000	4,308,315	-691,685	86.17	投稿査読等システム・J-stage掲載料、冊子体印刷製本発送、投稿手数料補助費
	英文誌出版分担金	165,000	163,200	-1,800	98.91	英文誌出版分担金
	大会補助費	400,000	0	-400,000	0.00	大会開催補助費
	研究部会補助費	700,000	0	-700,000	0.00	研究部会活動費補助
	委員会等経費	400,000	0	-400,000	0.00	会議室使用料・旅費、編集委員会(通常号)・編集委員会(大会号論文部門・技術報告部門)・緑化植物委員会
	事務委託費	1,860,000	1,850,308	-9,692	99.48	学会事務業務委託費(会員入退会、会費徴収、会計事務業務等)
	諸会費	160,000	160,000	0	100.00	JABEE、JAFEE、防災学術連携体
	災害特別対策費	25,000	0	-25,000	0.00	災害調査費用 他
	雑費	30,000	6,300	-23,700	21.00	振込手数料 他
	記念事業費	0	0	0	0.00	
	基金積み立て	0	0	0	0.00	
	小 計	9,845,000	7,448,689			
	予備費	4,447,058	0	-4,447,058	0.00	
	合 計	14,292,058	7,448,689	-6,843,369	52.12	

次期繰越金		7,652,157
-------	--	-----------

2023年度 日本緑化工学会の収支決算内容を上記のとおりご報告申し上げます。

2024年8月29日

日本緑化工学会副会長兼経理部会長

築瀬 知史



2023年度 基金 収支報告書

(2023年 8月 1日 ~ 2024年 7月31日)

日本緑化工学会

	費 目	予算額 (A)	決算額 (B)	差額 (B-A)	対予算割合 (B÷A × 100)	摘 要
収 入 の 部	前期より繰り越し	1,130,019	1,130,019	0	-	
	利子収入	0	10	10	-	
	一般会計より戻し入れ	0	0	0	-	新規積み立て
	合 計	1,130,019	1,130,029	10	100.00	
支 出 の 部	一般会計へ繰り入れ	0	0	0	-	
	一般会計へ貸し出し	0	0	0	-	
	合 計	0	0	10	-	

次期繰越金		1,130,029
-------	--	-----------

2023 年度 貸借対照表及び財産目録

2024 年 7 月 31 日現在

資 産 の 部			負 債 の 部		
科 目	摘 要	金 額	科 目	摘 要	金 額
現 金	事務局	28,629	未払費用		3,949,815
預 金		15,550,322		事務人件費	120,000
	みずほ銀行 本郷支店	3,938,715		学会誌刊行費	3,829,815
	本郷郵便局	10,481,578	合 計		3,949,815
	三井住友銀行	1,130,029	純 資 産 の 部		
未 収 金		818,850	科 目	摘 要	金 額
	BN販売	6,350	前受会費		3,665,800
	別刷り代	17,500		正会員	1,960,800
	投稿料	70,000		賛助会員	1,575,000
	会費	227,000		学生会員	125,600
	購読料	8,000		LEE冊子	4,400
	広告費	490,000	次期繰越金		7,652,157
			基金繰越金		1,130,029
			合 計		12,447,986
合 計		16,397,801	負債・純資産計		16,397,801

－ 会計監査報告 －

2023年度(2023年 8月 1日 ～ 2024年 7月31日) 収支決算報告書および財産目録に基づき、帳簿類を監査したところ、適正であることを認めます。

2024/8/29

2023年度 日本緑化工学会

監事

吉崎 真司



同上

監事

田中 賢治



2023年度 阿蘇プロジェクト活動 収支報告書

(2023 年 7 月 1 日～2024 年 6 月 30 日)

日本緑化工学会 生態・環境緑化研究部会

	費 目	決算額	摘 要
収入の部	公財自然保護助成基金	900,000	公益財団法人自然保護基金より入金
	作業経費	359,700	タロックス株式会社
	小 計	1,259,700	
	繰 越 金	0	
	合 計	1,259,700	
支出の部	消耗品	86,593	針金・杭・手土産ほか
	委託費	55,220	有限会社ウェルディングギャング
	謝金	192,000	学生ボランティア日当・旅費交通費
	旅費交通費	575,552	航空券・レンタカー・宿泊料ほか
	通信運搬費	67,088	駐車料金・宅配便ほか
	図書資料費	32,750	印刷代・資料作成代金
	会議費	26,789	弁当代
	借用費	215,740	なみの高原やすらぎ交流館
	雑経費	6,823	行事保険
	小 計	1,258,555	
	学会本部繰り入れ費用	1,145	
	合 計	1,259,700	

次期繰越金	0
-------	---

2023年度 阿蘇小規模崩壊地復元プロジェクトの収支決算内容を上記のとおりご報告申し上げます。

2024年6月30日

上記内容に相違が無いことを確認しました。

2024 年 8 月 21 日

日本緑化工学会 経理部会

入山 義久

検
24.08.21
入山

会則の改定（案）

会則の一部改定新旧対照表（下線は変更部分を示す。）

現 行	改 正	摘 要
第 4 条 本会は本部を東京農業大学地域環境科学部森林総合科学科治山・緑化学工研究室内に置く。	第 4 条 本会は本部を東京農業大学地域環境科学部森林総合科学科 <u>治山緑化工学</u> 研究室内に置く。	名称の変更
第 6 条 本会の会員は次のとおりとする。 （1）正会員 本会の目的に賛同する個人 （2）賛助会員 本会の事業を賛助する団体 （3）購読会員 会誌の購読のみを目的とする団体、または個人 （4）学生会員 大学（大学院、短大を含む）、高等専 門学校に在籍している個人 （5）名誉会員 緑化に関し、または本会に特に功績 のあった者で、総会の議決をもって推挙された者	第 6 条 本会の会員は次のとおりとする。 （1）正会員 本会の目的に賛同する個人 （2）賛助会員 本会の事業を賛助する団体 <u>（3）</u> 学生会員 大学（大学院、短大を含む）、高等専 門学校に在籍している個人 <u>（4）</u> 名誉会員 緑化に関し、または本会に特に功績 のあった者で、総会の議決をもって推挙された者	講読会員の廃止に伴い現行（3）を削除し、号番号を繰り上げ
第 7 条 本会の会費は次のとおりとする。 （1）正会員 年額 8,000 円 （2）賛助会員 年額 35,000 円以上 （3）購読会員 年額 8,000 円 （4）学生会員 年額 4,000 円 （5）名誉会員 会費を納めることを要しない	第 7 条 本会の会費は次のとおりとする。 （1）正会員 年額 8,000 円 （2）賛助会員 年額 35,000 円以上 <u>（3）</u> 学生会員 年額 4,000 円 <u>（4）</u> 名誉会員 会費を納めることを要しない	講読会員の廃止に伴い現行（3）を削除し、号番号を繰り上げ
第 8 条 本会の会員になろうとする個人または団体は、入会申込書を会長に提出し理事会の承認を受けなければならない。 2. 入会者は所定の入会手数料および入会年度の年会費を納入しなければならない。	第 8 条 本会の会員になろうとする個人または団体は、入会申込書を会長に提出し理事会の承認を受けなければならない。 2. 入会者は所定の入会手数料 <u>及び</u> 入会年度の年会費を納入しなければならない。	文言の統一

現 行	改 正	摘 要
第 37 条 企画・事業部会の担当事項は次のとおりとする。 (1) ～ (3) (略) (4) その他要な事	第 37 条 企画・事業部会の担当事項は次のとおりとする。 (1) ～ (3) (略) (4) その他<u>必要</u>な事	誤植の修正
(事業部門：編集部会) 第 38 条 編集部会の担当事項は次のとおりとする。 (1) 学会誌、その他刊行出版物に関する こと (2) その他必要な事項	(事業部門：編集部会) 第 38 条 編集部会の担当事項は次のとおりとする。 (1) <u>学会誌の刊行</u>に関すること (2) その他必要な事項	実態に即するため
第 39 条 学術国際交流部会の担当事項は次のとおりとする。 (1) 日本学術会議に関すること (2) 国際学術交流に関すること (3) その他必要な事項	第 39 条 学術国際交流部会の担当事項は次のとおりとする。 (1) <u>英文誌 LEE の刊行</u>に関すること (2) 国際学術交流に関すること (3) その他必要な事項	実態に即するため

第四号議案

日本緑化工学会 令和6年度事業計画（案）

（令和6年／2024年8月1日～令和7年／2025年7月31日）

1. 第55回日本緑化工学会大会の開催

開催年月日：2024年9月12日（木）～14日（土）

開催地：東京農業大学世田谷キャンパス（東京都世田谷区）および周辺

発表題数：82題（口頭発表 17件、ポスター発表 65件）

発表件数のうち、論文 9件、技術報告 16件、研究交流発表 44件

現地見学会「nature positive 織りなす都市・Tokyo」（9月12日）を開催予定。

公開シンポジウム「ヒトが生み出し・つなぐ Tokyoのみどり」（9月13日）を実施予定。

※ 第56回大会は、2025年9月8日（月）～10日（水）に、京都大学にて開催予定。

現地見学会は EXPO2025 大阪・関西万博会場を予定。

2. 研究会等

(1) 生物多様性緑化研究部会

「未来の里山における人と自然を考える オンライン連続講演会」を共催にて毎月1回開催。

主催：明治大学農学部応用植物生態学研究室 後援：一般財団法人世田谷トラストまちづくり

第17回：2024年8月28日（水）日置佳之「生田緑地と環境ポテンシャル」

第18回：2024年9月25日（水）前田瑞貴「明治大学黒川農場の植生管理」

その後も月1回程度開催予定。

(2) 斜面緑化研究部会

第55回大会において研究集会を企画

開催日時：2024年9月14日（土） 13:15～14:45 会場：B（242）

テーマ：「外来草本ヨシススキの分布域拡大状況の確認と課題」（研究集会4）

(3) 生態・環境緑化研究部会

①阿蘇の現地活動の継続（阿蘇ワーキングチーム）

②環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所等と連携した地域性種苗利活用促進、情報発信活動を継続
（環境省直轄登山道における施工箇所のモニタリング、維持管理の継続等）

③在来緑化植物の地域性の検討、阿蘇ガイドラインの作成と公開

④第55回大会において研究集会を企画

開催日時：2024年9月14日（土） 15:00～16:30 会場：A（232）

テーマ：「Nature Positive を確実に実現する自然再生・緑化を目指して」（研究集会5）

(4) 緑・健康研究部会

①緑・健康部会主催オンラインセミナーを開催予定。

（開催時期、テーマは未定）

②「緑と人の健康」に関するワークショップを予定。

（開催時期、テーマは未定）

(5) 海岸林・沿岸域緑化研究部会

年2回の公開勉強会を継続予定。

(開催時期、テーマは未定)

(6) 第55回大会 企画研究集会

- ① 研究集会1 企画担当：森本淳子・橘 隆一・田中 淳・小川泰浩・小野幸菜・熊田勇斗

開催日時：2024年9月13日（金） 11：00～12：30 会場：A（232）

テーマ：「令和6年能登半島地震復興にむけて—未来の能登を考える—」

- ② 研究集会2 企画担当：今西亜友美・岡 浩平・小宅由似・福井 亘・宮崎直美・村上健太郎

開催日時：2024年9月13日（金） 11：00～12：30 会場：B（242）

テーマ：「OECMで活きる！現行自然共生サイトの現状と新制度」

- ③ 研究集会3 企画担当：平林 聡・加藤 顕・河原典生

開催日時：2024年9月14日（土） 13：15～14：45 会場：A（232）

テーマ：「樹木による生態系サービスを可視化するー i-Tree Eco/Canopy ユーザーワークショップ」

- ⑥ 研究集会6 企画担当：築瀬 知史

開催日時：2024年9月14日（土） 15：00～16：30 会場：B（242）

テーマ：「技術交流会 何故、健全な樹木を伐ってはいけないか？」

(現在活動中の研究部会)

斜面緑化研究部会 都市緑化技術研究部会 生態・環境緑化研究部会

乾燥地緑化研究部会 積雪寒冷地緑化研究部会 緑・健康研究部会

生物多様性緑化研究部会 海岸林・沿岸域緑化研究部会

3. シンポジウム

- (1) 第55回大会公開シンポジウム

開催年月日：2024年9月13日（金） 14：30～17：30

会場：東京農業大学 横井講堂

テーマ：「ヒトが生み出し・つなぐ Tokyoのみどり」

- (2) その他、企画シンポジウムの開催を予定。

4. 現地見学会

- (1) 第55回大会現地見学会 「nature positive 織りなす都市・Tokyo」

開催年月日：2024年9月12日（木）

見学場所：東京都の水源林と地産材活用の取り組み、大手町の森

- (2) 能登半島にて現地検討会を開催予定

テーマ：「能登半島地震による影響と自然再生」

開催年月日：2024年10月12日（土）、13日（日）

令和6年能登半島地震の影響や自然再生の取り組みを視察し、意見交換を行う。

- (3) その他、現地見学会の開催

5. 緑化工セミナー

学会諸活動を PR すること、学生や若手に活動内容を積極的に伝え、当学会の魅力を伝えることを目的として「緑化工セミナー」を企画・開催。基本的に CPD ポイントの付与を予定。

(1) 「未来の緑化工セミナー」(新博士、若手による研究紹介) 企画担当：松本 浩理事、倉本 宣理事

実施方法：オンライン (Zoom ミーティング)

① 未来の緑化工セミナー第3回 テーマ：「都市域の緑化空間における生物多様性」

開催日：2024年8月26日(月) 話題提供者：宮本脩詩氏、高林 裕氏

CPD ポイント：1.5

② 未来の緑化工セミナー第4回以降

話題提供者(決定済み)：宮崎直美氏、阿部建太氏、西野文貴氏、小川泰浩氏により、2024年10月から2025年7月に数回に分けて実施。

その他、随時検討して実施予定。

(2) 「技術を学べるセミナー」(緑化技術に関する発表・セミナー・緑化技術交流会)

(3) 「研究部会セミナー」(研究部会の活動内容をわかりやすく紹介)

6. 学会誌の発行：4回発行予定

(1) 第50巻1号：令和6年8月31日発行 170 ページ(第55回大会特集号)

(2) 第50巻2号：令和6年11月末 発行予定

(3) 第50巻3号：令和6年2月末 発行予定

(4) 第50巻4号：令和6年5月末 発行予定

・第50巻(2024年度刊行)は移行期間とし、従来通り1~4号を編成し、全文PDFも学会HPにて公開する。第51巻以降は、「大会号」と「通常号」の2号編成として、大会号以外は採択が決まった原稿からJ-Stageに即時公開する発行案について、引き続き編集部会および理事会にて検討する。

7. 学会誌の電子化に伴う学会活動・運営(デジタル改革ワーキンググループ)

(1) 学会誌およびコミュニティレターサイトの運営

コミュニティレターサイトを新規作成する。外注によるサイト構築の後、会員による更新運営を行う。

(2) コミュニティレターの発行

8. 英文誌 Landscape and Ecological Engineering (LEE) の発行

4回発行予定：Vol. 20(4), Vol. 21(1)~(3)

9. 学会賞の授与

令和6年度日本緑化工学会賞の授与(令和7年総会にて授与予定)

10. CPD

第55回日本緑化工学会大会の公開シンポジウム及び研究集会、現地見学会を森林・自然環境技術教育センター(JAFEE)のCPDプログラムとして登録し、CPDポイントを付与する。

緑化工セミナー等に、必要に応じてCPDプログラムとして登録し、CPDポイントを付与する。

11. ICLEE2024 大会（ICLEE 設立 20 周年記念大会）

開催年月日：2024 年 10 月 4 日（金）～6 日（日）

開催地：九州工業大学（福岡県北九州市）

発表題数：167 題（口頭発表 92 件、ポスター発表 75 件）

日本緑化工学会 ICLEE2024 実行委員会（森本委員長ほか 6 名）が運営参加。

12. 情報公開・広報・交流事業

(1) ホームページ及び会員ブログの運営（総務部会）

(2) 会員向け連絡「ニュースメール」の配信、情報管理と公開（総務部会）

(3) メーリングリスト green-if の運営（情報共有委員会）

13. その他

(1) 日本学術会議への参加協力及び活動

(2) 防災学術連携体における活動

① 総会、WEB 研究会及び連絡会に参加予定。

② 防災学術連携体の中で日本緑化工学会が参加できる内容を告知、随時対応。

(3) 日本農学会への加盟

2024年度 予算案

(2024 年 8 月 1 日 ～ 2025 年 7 月 31 日)

日本緑化工学会

	費 目	予算額 (A)	前年度 決算額 (B)	差 額 (A-B)	対予算割合 (A/B ×100)	摘 要
収入の部	正会員費	4,420,400	4,420,400	0	100.0	入金 553名 / 583名 (@8000)
	賛助会員費	1,855,000	1,855,000	0	100.0	入金 53名 / 53名 (@35000)
	購読会員費	-	272,000	-	-	廃止
	学生会員費	184,000	182,000	2,000	101.1	入金 46名 / 70名 (@4000)
	入会登録料	31,500	32,900	-1,400	95.7	入金 45名 / 一名 (@700)
	英文誌購読料	26,520	26,520	0	100.0	
	投 稿 料	400,000	480,000	-80,000	83.3	Vol.51-1 ～ Vol.51-4 分
	広 告 料	850,000	1,300,000	-450,000	65.4	電子広告、コミュニティーレター広告 [今年度から変更]
	雑 収 入	1,000,000	809,468	190,532	123.5	大会事務局経費 +200、 別刷・BN販売収入、著作権使用料、J-Stage有料閲覧費、利息等
	小 計	8,767,420	9,378,288	800,788	93.5	
	繰 越 金	7,652,157	5,722,558			
	合 計	16,419,577	15,100,846	800,788	92.0	
支出の部	会 議 費	150,000	0	150,000	-	
	旅費交通費	1,500,000	50,460	1,449,540	2,972.7	理事会交通費、対面開催3回、他はWeb会議・メール会議
	事務人件費	800,000	465,380	334,620	171.9	口座振替システム基本料金、HP・ML管理費、サーバレンタル料 [今年度限り] バックナンバー掲載 400、サイト修正 50
	通 信 費	300,000	365,064	-65,064	82.2	会費請求書発送費、電話・FAX料、Zoomライセンス(2契約)
	事務用品費	100,000	79,662	20,338	125.5	学会賞賞状・副賞、総務部会事務用品費
	学会誌刊行費	3,000,000	4,308,315	-1,308,315	69.6	投稿査読等システム・J-stage掲載料、 冊子体印刷製本発送、投稿手数料補助費、コミュニティーレター 500
	英文誌出版分担金	165,000	163,200	1,800	101.1	英文誌出版分担金
	大会補助費	200,000	0	200,000	-	大会開催補助費
	研究部会補助費	700,000	0	700,000	-	部会活動費補助
	委員会等経費	400,000	0	400,000	-	会議室使用料・旅費、編集委員会(通常号)・編集委員会(大会号論文部 門・技術報告部門)
	事務委託費	2,860,000	1,850,308	1,009,692	154.6	学会事務業務委託費(会員入退会、会費徴収、会計事務業務等) [3ヶ年程度] 会員管理システム構築 1000
	諸会費	230,000	160,000	70,000	143.8	JABEE、JAFEE、防災学術連携体、[新規]日本農学会 70
	災害特別対策費	100,000	0	100,000	-	災害調査費用 他
	雑費	30,000	6,300	23,700	476.2	振込手数料 他
	基金積み立て	0	0	0	-	
	小 計	10,535,000	7,448,689	3,086,311	141.4	
	予備費	5,884,577	7,652,157	7,146,914	79.0	決算時予備費は0、数字は繰越金
	合 計	16,419,577	15,100,846	800,788	108.7	

2024年9月13日

日本緑化工学会副会長兼経理部会長
梁瀬 知史

2024年度 基金予算案

(2024年 8月 1日 ～ 2025年 7月31日)

日本緑化工学会

	費 目	予算額 (A)	前年度 決算額 (B)	差額 (A-B)	対予算割合 (A / B × 100)	摘 要
収入 の 部	前期より繰り越し	1,130,029	1,130,019	10	100.00	
	利子収入	10	10	0	100.00	昨年並と想定
	一般会計より戻し入れ	0	0	0	-	新規積み立て
	合 計	1,130,039	1,130,029	10	100.00	
支出 の 部	一般会計へ繰り入れ	0	0	0	-	
	一般会計へ貸し出し	0	0	0	-	
	合 計	0	0	0	-	

次期繰越金	1,130,039	1,130,029
-------	-----------	-----------

第六号議案

役員の一部改選（案）

下記の通り 役員の変更を提案致します。

変更年月日：令和6年9月13日

就任役員

役 職	氏 名	所 属	摘 要
理 事	今井 祥之	株式会社高速道路総合技術研究所	後 任

退任役員

役 職	氏 名	所 属	摘 要
理 事	篠田 貴	株式会社高速道路総合技術研究所	異 動